

能の出演者 Performer of Noh

1 シテ 物語の主役です。演出も行います。 2 ワキ シテの相手役です。 3 後見 舞台の監督役です。

4 地謡 謡のうち、シテやワキのセリフ以外の情景や心情を描いた部分を担当します。 5 囃子方 舞台上で楽器を演奏します。

アイ… 能の前後場の間をつなぐ狂言をアイ(間狂言)と呼びます。



6m四方の本舞台には檜板が縦に張られています

能楽体験のご案内

「観能の夕べ」をよりお楽しみいただくため、開演前に演目に関する体験を実施します。



開催日	内容	講師
7月4日(土)	狂言体験	能村 晶人、中尾 史生
7月18日(土)	大鼓・太鼓体験	五十嵐 浩之、麦谷 暁夫
8月1日(土)	笛・小鼓体験	江野 泉、河原 清
8月15日(土)	謡・仕舞体験	藪 克徳、葛野 りさ

- 時間:各回15:00~(40分程度) ※14:30~受付開始
- 定員:各回20名程度 ※要事前申込・先着順
- 料金:無料(当日の鑑賞者に限り) ※白足袋をお持ちの方はご持参ください。
- お申し込み・お問い合わせ:県立能楽堂 Tel.076-264-2598

金沢能楽美術館 関連行事

「観能の夕べ プレ講座(全3回)」

金沢能楽会の人気能楽師が、能の見どころを分かりやすく紹介します。

参加無料
(要観覧料、申込優先)

第1回	第2回	第3回
7/4(土) 11:30~12:30	7/18(土) 13:30~14:30	8/15(土) 13:30~14:30
講師:佐野 弘宜	講師:高橋 憲正	講師:渡邊 茂人
[解説演目:7/4・11・18の能]	[解説演目:7/25・8/1・8の能]	[解説演目:8/15・22・29の能]

- 会場:金沢能楽美術館 3階研修室(各回50名)
- お申し込み・お問い合わせ:金沢能楽美術館 TEL.076-220-2790

アフタートークのご案内

今回もアフタートークを開催します。ぜひご参加ください!

第1回	7/11(土) 講師:福岡 聡子、大橋 紀美	第2回	8/15(土) 講師:金森 良充、渡邊 隆士
-----	---------------------------	-----	---------------------------

- 時間:各回公演終了15分後より30分程度
- 料金:無料(当日の鑑賞者に限り)
- 会場:見所
- お問い合わせ:県立能楽堂 Tel.076-264-2598



石川県立能楽堂
ホームページ

写真提供:(公社)金沢能楽会

字幕解説サービス「能サポ」

スマホを利用した字幕解説サービス「能サポ」を無料でご利用いただけます。セリフと解説(日本語・英語)が画面に自動で表示されます。なお、字幕解説は能のみとなります。



▲字幕解説サービス「能サポ」は事前にこちらのQRコードから「EG-G」アプリ(無料)をダウンロードしてください。



金沢駅兼六園口(東口)6番のりば 北鉄バス 出羽町バス停より徒歩3分

観能の夕べ

毎週
土曜日開催
全9回

世界無形文化遺産
能楽

かんのうのゆうべ

今触れてほしい
伝統文化が、ここにある

7/4 - 8/29
|土| |土|

17時開演(16時開場/19時頃終了予定)
※詳しい日程は中面をご覧ください。

国と県の補助により、お手ごろな料金で
本格的な伝統芸能をご鑑賞いただけます。

通常公演/各1,500円
特別公演/[8月22日] 3,000円
※当日券同額 ※各回解説付き

チケットの
お求め

石川県立能楽堂(076-264-2598)
石川県立音楽堂チケットボックス(076-232-8632)
金沢能楽美術館(076-220-2790)
香林坊大和プレイガイド(076-220-1332)

※石川県立能楽堂以外でのチケット販売は各公演日の3日前までとなります。
※高校生以下無料。ただし、入場券が必要となります。
入場券は石川県立能楽堂でお求めください。



オンライン予約は
こちらから!
オンラインチケット
販売は各公演日
の3日前までと
なります。

能楽体験を実施します!(全4回) ※詳しくは裏面をご覧ください。

主催/いしかわの伝統文化活性化実行委員会

会場・お問い合わせ/石川県立能楽堂

TEL&FAX 076-264-2598
〒920-0935 金沢市石引4-18-3



文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan
令和8年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)



日本の伝統美と 幽玄の世界に浸る 世界最古の 舞台芸術



能楽とは What's Nohgaku?

「能楽」は、継承されている演劇としては「世界最古」といわれる日本独自の舞台芸術で、「能」と「狂言」から成ります。日本で最初にユネスコ無形文化遺産に登録された世界が認める伝統芸能です。「能」では、笛や鼓による演奏と地謡と呼ばれるコーラス隊の謡にあわせて舞台上の人物が舞いながら物語を展開します。一方「狂言」は、庶民の日常生活を題材とした喜劇であり、会話を中心に物語が展開します。

加賀宝生 Kaga Hosho

江戸時代、能は幕府の式楽となり、各地の藩でも能が盛んになりました。加賀藩前田家は能の宝生流(5流派の1つ)を手厚く保護・育成し、庶民にも広く推奨したことから、今では金沢といえば「加賀宝生」と言われるほど、発展を遂げています。

石川県立能楽堂 Ishikawa Prefectural Noh Theater

能楽文化の保存・継承及び振興の拠点として、昭和47年(1972年)全国初の独立した公立能楽堂として開館しました。能舞台は、昭和7年(1932年)に建てられた金沢能楽堂本舞台を移築したもので、国の有形文化財に登録されています。



石川県立能楽堂
ホームページ



石川県立能楽堂
ホームページ

公演予定

Scheduled performance

7/4
[土]

〔狂言〕 仏師 能村 晶人

堂を建立した田舎者は、中に安置する仏像を買い求めに都へ行くと、詐欺師が仏師と名乗り田舎者に近づき、仏像の寸法や形を聞き、自ら仏像になりすまして騙そうとしますが…。

〔能〕 鉄輪 佐野 玄宜

夫に捨てられた女は恨みを晴らすべく貴船神社に丑の刻参りをする。神託に従い恨みの鬼と化した妻は夫と後妻に襲いかかるが、夫が依頼した安倍晴明に祈祷され、呪いを残して立ち去る。

7/11
[土]

〔狂言〕 咲嘩 炭 哲男

主人は都の伯父に連歌の手解きをしてもらうため、太郎冠者に伯父を呼んで来るように命じます。伯父を知らない太郎冠者は、都で伯父と名乗る男を連れて帰るが、その男は咲嘩(大盗人)だと気づき…。

〔能〕 枕慈童 福岡 聡子

魏の国。霊水が沸く山に赴いた勅使の前に慈童という仙人が現れる。慈童は七百年前、この山に流された顔末と不老不死の秘密を語り、帝に長寿を捧げ、菊水の功德を讃えて舞う。

7/18
[土]

〔狂言〕 苞山伏 清水 宗治

山人と山伏が昼寝をしている所に通りかかった男が、山人の弁当を見つて食べてしまい、山人が目覚めたため、寝た振りをします。山人は、弁当がなくなっていることに気づき、「誰が弁当を食べたのか?」と狂言には珍しい推理劇のようなお話。

〔能〕 須磨源氏 高橋 憲正

日向の国の神官・藤原興範一行は須磨の浦で、源氏物語ゆかりの「若木の桜」を眺める老人と行き会う。老人は光源氏の生涯を語り、光源氏の来臨をほのめかして消える。やがて兜率天に住まう光源氏が降臨し青海波の舞を舞ううち、夜明けとともに消えて行く。

7/25
[土]

〔狂言〕 成上り 山田 譲二

主人と太郎冠者が鞍馬へ参詣に出かけ眠っていたところへ徒者が現れ、冠者が抱えていた主人の太刀を青竹にすりかえて逃げます。目を覚ました冠者は、太刀が青竹に成り上がったと主人に報告し、失態をごまかそうとしますが…。

〔能〕 羽衣 渡邊 茂人

漁夫の白龍が松に掛けてある美しい衣を見つけ、持ち帰ろうとすると、持ち主の天女が現れる。羽衣がないと天に帰れないと嘆く姿に心を動かされ、天人の舞を見せることを条件に羽衣を返すと、天女は天に舞い昇り、次第に姿を消していく。

8/1
[土]

〔狂言〕 鐘の音 炭 光太郎

伴が成人したので黄金造りの太刀を新調するため鎌倉へ行って「金の値」を聞いてくるように主人から命じられた太郎冠者は、寺々を巡り、様々な「鐘の音」を聞き比べます。帰って主人に報告しますが…。

〔能〕 岩船 藪 克徳

帝の命を受け、高麗や唐土の宝を集めていた勅使は、一人の童子と出会う。童子は帝への捧げ物として宝珠を捧げ、天の岩船が漕ぎ寄せてくると伝える。童子こそ岩船の漕ぎ手天の探女であった。やがて岩船を守護する龍神が現れ、天の探女と協力して岩船を引き、八大龍王の力も得て、金銀珠玉を積み上げる。

8/8
[土]

〔狂言〕 佐渡狐 中尾 史生

佐渡と越後の国の百姓が、領主に年貢を納めに行く途中で道連れになり、佐渡に狐がいるかないかの論争になります。二人はそれぞれの刀を賭け、役人の奏者に判定を頼むことにしますが、実は、狐を見たことの無い佐渡の百姓は、奏者に掛け合い…。

〔能〕 経政 葛野 りさ

仁和寺の僧行慶は、一の谷の合戦で討ち死にした平経政を弔うため、経政が愛用した琵琶「青山」を仏前に置き、管弦講(音楽を奏でる法要)を行う。その夜、経政の霊が現れ、昔を懐かしみながら琵琶を奏で舞うが、やがて憤怒の思いが沸き上がり、戦いに苦しむ姿を見せる。経政はその姿を見られまいと燈火を消し、暗闇の中に消えて行く。

8/15
[土]

〔狂言〕 文山賊 能村 晶人

二人の山賊が口論の末果し合いを始めるが、この勇ましさ潔さを誰にも知られずに死ぬのは惜しいので書置きを残す。それを妻子が読んだら、さぞかし悲しむであろうと感じた山賊たちはいったいどうするのでしょうか。

〔能〕 是界 金森 良充

唐の仏教界を乗っ取った天狗・是界坊は、日本の仏教界も墮落させようと愛宕山の太郎坊を訪ね二人で比叡山を狙う。勅命により京都へ急ぐ高僧を魔道に引き入れようとするが、僧の祈りにより、遂に力を失い退散する。

8/22
[土]

〔仕舞〕 天鼓 大坪 喜美雄

〔狂言〕 樋の酒 野村 万之丞

主人は太郎冠者に米蔵、次郎冠者に酒蔵の留守番を命じ外出します。別々の蔵の番をしていた冠者たちですが、寂しくなった次郎冠者は酒蔵の酒を飲みだし、それを見た太郎冠者も酒を飲みたくなり、兩人とも酒蔵で飲み始めます。そこへ主人が帰ってきて…。

〔能〕 紅葉狩 宝生 和英 宝生流二十代宗家

信濃戸隠山へ鹿狩に出た平維茂一行は、紅葉狩を楽しむ美女たちに行き会う。誘われるままに酒宴に加わり、女の舞に見とれるうちに眠りに落ちる。女は維茂が眠ったのを見届けると物凄まじい体を現し、嵐とともに消える。守護神の夢の告げに目覚めた維茂に、鬼の本性を現した女が襲いかかるが、維茂の武勇に退治される。

8/29
[土]

〔狂言〕 蝸牛 炭 哲男

祖父に更なる長生きをしてもらおうと考えた主人は、長寿の薬にもなるという「蝸牛」を捕ってくるよう、太郎冠者に命じます。蝸牛がどのようなものかも知らない太郎冠者は、藪に行けば必ず見付かるもので腰に貝を付けているなどと教えられ、言われるが儘に出掛けて搜索を始めます。藪には長旅で疲れ果てた山伏が寝ていて、太郎冠者は蝸牛を探し当てたと思いつみ…。

〔能〕 半薔 木谷 哲也

花供養する僧の前に若い女が現れ、夕顔の花を捧げて消える。近くに住む者から光源氏と夕顔の物語を聞いた僧が女の言葉に従い五条あたりに赴くと、夕顔の霊が現れる。夕顔は光源氏との思い出を語って舞い、夜が明ける前に消えていく。